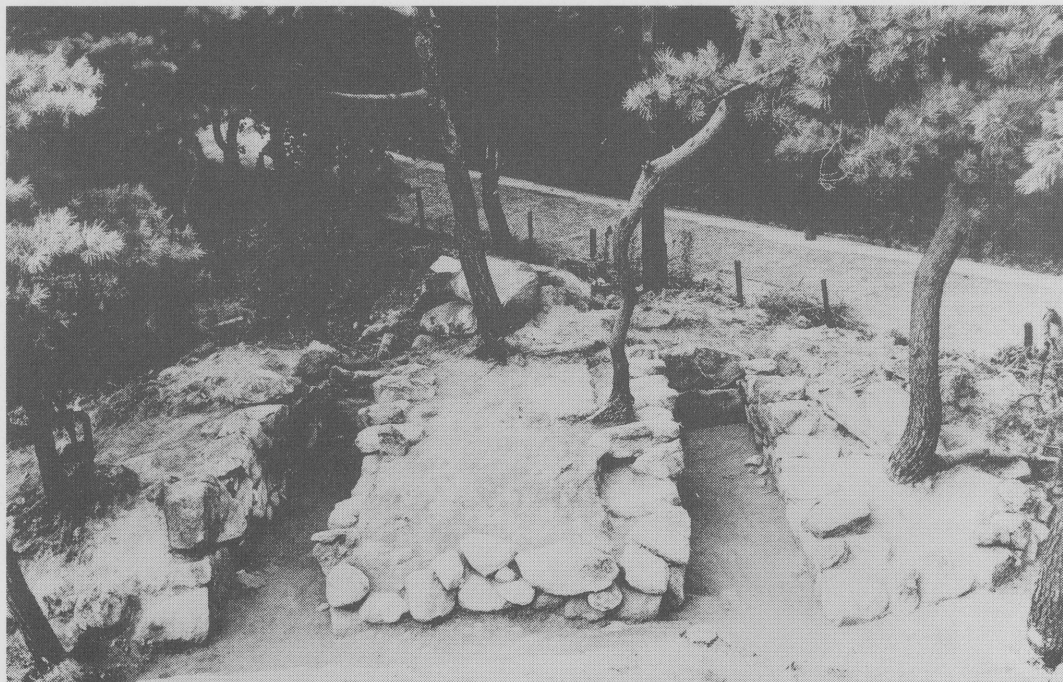


THE NEWSLETTER OF NISHINOMIYA CITY MUSEUM

# 西宮市立郷土資料館ニュース 第15号

西宮市立郷土資料館 兵庫県西宮市川添町15番26号 〒662 電話0798-33-1298



八十塚古墳群苦楽園支群第1、2号墳

## 目次 CONTENTS

特別展「八十塚発掘」(合田茂伸) …2

西宮の地藏盆 (土居佳代) …4

寄贈資料一覧…8

## 特別展「八十塚発掘」7月30日(土)→9月4日(日)

合田茂伸(当館学芸員)

八十塚古墳群は、西宮市苦楽園四番町、五番町、六番町、老松町、芦屋市六麓荘町、岩園町、朝日ヶ丘町にまたがる、東西約700m、南北約900mの範囲に所在する。現在のところ、54基の横穴式石室古墳からなる、6世紀中葉～7世紀中葉に築造・造営されたいわゆる群集墳である。54基のうち29基が発掘調査されている。古墳群や古墳箇箇の詳細については、諸報文や標記の特別展に譲るとして、ここでは、八十塚古墳群の調査・研究史を概観してみる。

「八十塚」は、並河誠所編になる享保19年(1734)刊『摂津志』が初見である。「打出村西、岩平山中有数冢、呼曰八十冢」と記される。寛政8年(1796)刊の『摂津名所図会』にも同様に、「八十塚、打出村の西岩平山中にあり、数の多きより名とす」とある。明治にはいと、福原潜次郎氏や、仲彦三郎氏が雑誌『考古会』に論文を掲載し、はじめて、八十塚古墳群が考古学的に論じられることになる。これを引用して、『西摂大観』(明治44年(1911)刊)、『武庫郡誌』(大正10年(1921)刊)に「八十塚」が収載される。このころから、地元在住の研究者による遺跡踏査活動が盛んになり、その記録が残されるようになる。紅野芳雄氏による遺跡踏査活動は、明治41年(1908)ころから昭和13年(1938)ころまで継続し、『考古小録』として、まとめられている。すでに、当阪神間地域における代表的な遺跡を記録している点において貴重である。吉岡昭氏による遺跡の探索は、著書『摂津国芦屋郷土石器時代文化研究』に詳述されている。苦楽園から六麓荘にかけての当地域は、明治の末ころから、別荘地、保養地としての開発によって、八十塚古墳群の破壊が徐々にはじまったものと思われる。昭和15年から30年代にかけて、朝比奈貞雄氏、若林泰氏が、昭和35年以降は藤川祐作氏らの現地踏査とその記録がある。

昭和31年(1956)、芦屋市六麓荘町で、陶棺が出土し、ただちに緊急調査が実施された。昭和34年に周辺の2基の古墳を含め、八十塚A号墳、B号墳、C号墳(現岩ヶ平支群第1号墳、第2号墳、第3号墳)が発掘調査され、陶棺はA号墳起源であると認められた。その後、住宅地開発などに伴って、朝日ヶ丘1、2号墳(現朝日ヶ丘支群第1号墳、第2号墳)、八十塚E号墳(現岩ヶ平支群第5号墳)の発掘調査が続き、調査報告書が刊行され

ていった。この時期、文化財保護団体「芦の芽グループ」や、六甲南麓群集墳測量調査団が、八十塚古墳群の分布調査と測量調査を重ねた。それらの成果は、遺跡分布地図や、調査報告書として公刊された。また、西宮市域で、比較的良好に保存されていた苦楽園五番町5、6、7号墳（現苦楽園支群第5号墳、第6号墳、第7号墳）、老松1号墳（現老松支群第3号墳）、劔谷2号墳（現劔谷支群第2号墳）が学術調査された。こうした、継続的な調査の成果は、西宮、芦屋両市史のほか、苦楽園の古墳発掘調査団編『苦楽園の古墳』（西宮市文化財調査報告第2集 1978年）、芦屋市教育委員会・芦の芽グループ編『芦屋・八十塚古墳群岩ヶ平支群の調査』（芦屋市文化財調査報告第11集 1979年刊）をはじめとする諸報告に結実している。これら八十塚古墳群全体におよぶ調査のなかで、それまで「八十塚」といわれた古墳群を、八十塚古墳群のなかの1支群としての「岩ヶ平支群」としてとらえ、周辺古墳群を「朝日ヶ丘支群」、「老松支群」、「苦楽園支群」、「劔谷支群」と呼称して、群集墳を、古墳群－支群－小支群－古墳として把握しようとする姿勢が鮮明になってきた。

これと並行して、芦の芽グループのメンバーらによる個人研究が進められたが、八十塚古墳群での豊富な調査量と徹底した分析からみて、森岡秀人氏の研究が特筆される。森岡氏は、各古墳の型式と年代、地形立地を検討して導き出された、小支群・小群の設定や墓道の推定などとおして、古墳の造営単位の追究や周辺古墳や古墳群との対比を行い、石室の構造と追葬の関係や、古墳における儀礼の研究へと深化させている。

八十塚古墳群は、徐々に市街地化が進行し、再開発が繰り返される地域における、遺跡の保存の重要性和困難性を合わせ持っている遺跡である。これまで紹介した調査研究の歴史は、すべて、八十塚古墳群の保存への情熱によって生み出されたものばかりであって、古墳群の保存が、いかに意義のある、重要な作業であるのかを物語るであろう。今次特別展では、そのような積み重ねられた調査研究の一端を、出土した遺物をおして紹介してゆきたい。そのため、八十塚古墳群発掘調査第1号となった岩ヶ平支群第1号墳をはじめ、第2号墳、第3号墳、第5号墳、第50号墳など岩ヶ平支群はもとより、苦楽園、朝日ヶ丘、老松、劔谷各支群を網羅し、古墳群の全貌を展示する予定である。

末尾になったが、今回の特別展準備にさいして、全面的なご協力を惜しまれなかった、森岡秀人氏はじめ芦屋市立美術博物館および館員のかたがた、須恵器調査にご協力いただいた藤原 学氏にたいし、お礼申し上げます。

# 西宮の地蔵盆

土居佳代(当館嘱託)

---

西宮市内の各地域では、住民のかたがたに支えられて地蔵盆が行われています。昨年の8月に行われた地蔵盆のときに、当資料館の近辺数か所をまわり、世話をされている方から地蔵盆の様子や子供と地蔵に関する伝承をお聞きすることができました。今回はそのうちの8ヶ所の地蔵盆について紹介します。

## 1、西波止町の地蔵さん

所在地：西波止町5。地蔵さんは現地に来るまでに2回移動し、以前はここより南にありました。

方向：北向き

形状：五輪塔部分

由来：五輪塔は高野山に行った時に拾って来たとも、室戸台風の時に六甲山から流れ着いたとも言われています。

地蔵講：昭和16年頃は地蔵講がありました。講をしていた頃は地蔵盆には御詠歌を歌ったり、リンを鳴らしながら数珠練りをしました。

地蔵盆：講があった頃は、23日の晩には地蔵さんの前で盆踊りをしました。地蔵盆は60年も70年も前からしています。最近では老人会が支えています。現在は子供の数は以前に比べると減っていますが、70人くらいはいます。子供たちは24日の午後2時か3時には、お供えのおさがりをもらいにやって来ます。西波止地区の4、5人が当番制で地蔵盆の世話に当たります。地蔵さんの帽子とよだれかけは、それぞれが作って持ち寄ります。

## 2、安楽地蔵尊（南建石地蔵尊）

所在地：建石町9

方向：北向き

形状：舟形地蔵丸彫り（上部欠損）

由来：西宮浜に打ち上げられていた地蔵尊を戸崎初子氏の父（明治19年生まれ）が持ってきてまつたと伝えられています。お地蔵さんは70年以上前からあります。祠は酒造会社の人が建てました。



地蔵盆：地蔵さんの世話は建石町の隣保が行っています。8月23日にはテントを張り、晩には地蔵さんに電気をつけて、ゴザをしいて皆で談話します。親睦をはかるためにしています。8月24日は、午前中に光明寺（建石町）の人がお参りに来ます。

供え物：ソーメンやおひたしなどの精進料理を供えます。生臭いものは供えません。煮物には、油揚げ・高野豆腐・椎茸・人参を入れます。酢の物にはコンニャク・椎茸・大根・人参を三杯酢で味付けします。他に果物も供えます。

伝承：子供が欲しいときや、チュウブ（中風）をわずらっているときは、北向きのお地蔵さんをお願いすると治してくれます。近所の北向きの地蔵さんをお願いしてまわるとい人もいます。お地蔵さんに掛けてあるよだれかけを持って帰って、赤ちゃんの口やあごをなでてお膳を拭いたりすると、赤ちゃんのよだれがとまります。よだれかけは、新しく作りお地蔵さんに供えます。

話者：小野ヨシエ氏（明治43年生まれ）、戸崎千恵氏（昭和19年生まれ）、戸崎初子氏（大正4年生まれ）

### 3、延命世継地蔵尊

所在地：前浜町7

方向：北向き

形状：地蔵丸彫り

地蔵盆：昔は晩に子供たちが地蔵さんの前で踊っていましたが、今は子供が少なくなってここ10年来していません。お地蔵さんの世話は隣保で行っています。8月24日の朝、10時半頃に光明寺（建石町）の人がお参りに来ます。晩には御詠歌をあげます。御詠歌は昔から近所の人たちが行います。隣保でお地蔵さんの世話をしています。

供え物：餅・赤飯・果物をお供えします。

### 4、松下地蔵尊

所在地：前浜町10

方向：北向き

形状：（自然石か?）

由来：松の根本に祭られているので、松下地蔵尊という名が付いたのではないかとされています。

地蔵講：昭和のはじめ頃は地蔵講があり講員が30軒ほどありました。

地蔵盆：地蔵盆の準備は近所で交替で行っています。以前は提灯を家々の屋根を渡すよう

に吊っていました。8月24日にはお供えのお菓子を子供たちへ渡します。

供え物：ブドウや空豆の炒ったものを作って供えました。

#### 5、地藏尊

所在地：用海町4

方向：南向き

形状：地藏

由来：戦時中、西宮の空襲の後、焼け跡から子供が見つけてきました。借家でまつっていたものを戦後現地へ移しました。

伝承：晩にお参りに来る人があります。お地藏さんは時々紛失しますが、必ずここへ戻って来ます。

話者：堂本氏

#### 6、ひさし身代り地藏尊

所在地：久保町7

方向：東向き

形状：舟形地藏丸彫り

由来：18年ほど前に当地で交通事故で子供が亡くなり、その子供のおばあさんが当地へ地藏さんをまつりました。その後福本商店の人が近所をまわりお金を集めて祠を建てました。現在はその娘さんが続けて世話をしています。

地藏盆：地藏盆の世話は当番制で近所の人が7人で、1ヶ月ごとに掃除をしています。8月23日の晩5時頃から御詠歌をあげます。23・24日の連夜、子供が集まって日本たばこ産業株式会社西宮営業所の駐車場を借りて盆踊りをします。

供え物：地藏盆に供えるお菓子は寄付でまかないます。寄付金は帳簿につけて管理しています。

話者：福本商店

#### 7、小墓の地藏さん

所在地：用海町3。用海小学校を建てる前まで、今の用海小学校の敷地内辺りにありました。

方向：南向き

形状：地藏

地藏盆：地藏盆にはお地藏さんのよだれかけと帽子を新しく作りかえます。8月23日は地



小墓の地藏さん（用海町3）

蔵盆の準備をして、お菓子を詰めたりおにぎりを作ったりします。24日の晩は護摩たきをしました。お地藏さんの古いよだれかけと帽子は護摩たきの時に燃やしました。今年（1993年）からは護摩たきをせず御詠歌をあげます。また、スイカ割りや子供たちのカラオケ大会をしています。お供え物のおさがりは近所の100軒ほどに配ります。地藏盆の世話は用海長寿クラブ老人会がしています。隣保の15～6人が世話をしています。

小墓の地藏さんについては、大村利一氏著『西宮物語』に次のように紹介されています。「第四衛生組合の管轄内に小墓の地藏さんという等身大の立派な石地藏があった。第二小学校（用海小学校）の東南隅に植物園があって（中略）。その植物園の南側柵外荷小墓の地藏さんが安置されていたのである。（中略）毎年八月二十四日の地藏盆にはこの第四衛生組合の町々には軒行灯が子供たちの手で作られ、それに幼稚な絵が書かれ、宵からは点灯されて、この地藏盆を祭ったのである。水瓜や又出初めの薩摩芋（赤芋）や駄菓子が沢山お供えされ、それが夕方にはみんな町内の子供たちに分けられるのであった。」

話者：今村欣史氏

## 8、小墓の地蔵さん（長音山圓滿地蔵尊）

所在地：津門住江町10。用海町3にあったお地蔵さんをここへ移しました。

方向：南西向き

形状：地蔵

地蔵盆：昭和54年頃までは、地蔵盆には公園で盆踊りをしていました。

伝承：①地蔵さんを移すとき、嫁入り（よそへ移ること）を嫌がって公園に行く途中の川へ飛び込んだといわれています。②戦争中、食糧不足で子供に飲ませるお乳が出ない時、どうかお乳が出ますようにとよくお願いしました。お願いするとお乳が出るようになりました。③子供の欲しい人がなかなか子供ができないのでお願いすると、子供ができました。④墓の中から地蔵さんを動かそうとしたら、大人では動かないのに子供だと動きました。

話者：塚本昌夫氏（大正15年生まれ）。

今回の調査では、昔の地蔵盆の様子や伝承などの貴重なお話をうかがうことができました。紙面にてお礼申し上げます。なお、西宮市内に残される地蔵盆の調査は今後行う予定です。皆様からの情報をお待ちしています。

（参考文献）

大村利一 『西宮物語』 昭和41年

飯田寿作 『酒都遊観記』 昭和49年

寄贈資料一覧（平成5年11月～平成6年5月、敬称略）

ツヅラ・下駄（山本美智子）、備中鍬2点・鋤・手鉤2点・スコップ・カケヤ・槌・横槌・水桶・担い棒・杓・ナラシ・フォーク状民具（政田路一）、雑巾19点・小物入れ・『近體文』・『国民唱歌集』・『袖珍作文必携』・『初学入門（下）』・『活用いろは字引大全』・『明治玉編大全』・『定家撰錦葉抄』・『類題発句三体集』・『発句題林十二月抄』・『百人一首』・『雄鶏通信』（岡村富美子）、半切り・ネズミトリ・ヨキ・小形ヨキ・肥汲み・肥汲みの杓・鋸2点・火箸・コタツ・羽釜・鍬（松山清次）、重箱・湯たんぼ・カメラ（松浦 忠）、『新編中等東洋史要解』・『中学昭和新国史上級用 第5学年 見本』・『国史資料 教授参考書』・『新日本史中学校上級用（見本中等教科書協会）』ほか明治～昭和初期教科書24点（中山 沃）

ご寄贈ありがとうございました。

西宮市立郷土資料館ニュース第15号 1994年（平成6年）7月1日発行